

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 6 2	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Alcohol consumption and health-promoting behavior in a U.S. household sample: leisure-time physical activity アメリカの世帯標本におけるアルコール消費と健康増進活動との関係: 余暇の身体活動量との関係について	
執筆者 Smothers B, Bertolucci D.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) J Stud Alcohol. 2001 Jul;62(4):467-76.	
キーワード アルコール摂取量、身体活動量、心疾患	
要 旨 目的 アルコール摂取を抑えている人々は心疾患に予防的な他の健康増進活動も行っているのではないかという仮説に基づいて、アルコール消費量と余暇の身体活動量との関係を明らかにする。	
方法 1990年の国民健康聞き取り調査から抽出した41,104名のデータを用いた。そのうち女性は52.5%であった。習慣的飲酒をしたことがない群を対照として多重ロジスティック回帰分析を用いて分析を行った。	
結果 アルコール消費量と余暇の身体活動量の間には逆J字型曲線の関係が認められた。身体的に活発な生活習慣である割合は、習慣的飲酒をしたことがない群を1とすると中等量飲酒者で1.84であったが、それより多い飲酒では1.61と減少していた。喫煙者、55歳以上の者、循環器疾患危険因子保有者といった層化分析でも少量または中等量飲酒者にピークがある同様の結果であった。活動強度が増加すると中等量飲酒により顕著なピークを持った逆J字型曲線となった。	
結論 心疾患に予防的な余暇の身体活動と適度な飲酒との関係はアルコールと冠動脈疾患の関係の根拠となるかもしれない。	